

「大人も子どもも愛される主」 マタイ19：13-15

堀田修一 20・11・15

I 全世代の私達を愛される主

「ヤコブの家よ、わたしに聞け。イスラエルの家のすべての残りの者（主を信じる者）よ。胎内にいたときから担がれ、生まれる前から運ばれた者よ。あなたがたが年をとっても、わたしは同じようにする。あなたが白髪になっても、わたしは背負う。わたしはそうしてきたのだ。わたしは運ぶ。背負って救い出す」イザヤ46：3，4

1. 私達は、「胎内にいたときから担がれ」主に愛されていた。
2. 私達は「生まれる前から運ばれ」主に愛されていた。「神は、世界の基が据えられる前から、この方であって私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされたのです」エペソ1：4。
3. 「あなたがたが年をとっても、わたしは同じようにする。あなたがたが白髪になっても、わたしは背負う」。私達は、赤ちゃんの時も、子どもの時も、中高年でも、高齢になっても神に愛されている。感謝したい。※証し：色々な世代の人々の救い。

II マタイ19：13-15からも、教えられたい。

1. 「そのとき、イエスに手を置いて祈っていただくために、子どもたちがみもとに連れて来られた。すると弟子たちは、連れて来た人たちを叱った」：13。ユダヤ社会では、子どもたちをラビや長老のところに連れて行き、神の祝福を祈ってもらうことはよく行われていた。ここでも、親は、「手を置いて祈っていただくため」、子どもたちをイエスのところに連れて来た。ところが弟子たちは、子どもたちをイエスのもとに連れて来た人々を叱った。「叱った」は、怒りの感情を伴う強い非難を表す。そこには、色々な理由が、考えられるが、確かな事は、弟子たちが、子どもたちを重要な存在だと思っていなかったことは、確かである。弟子たちは、主が愛されている子どもに対して冷たい態度を示してしまった。私達は、どうだろうか？私達も、子どもの時代があった事をいつも覚えて、子ども達を愛したい。子どもの時、大人の人々に、愛を示された事を覚えている。その愛は、子どもたちの将来に大きな影響を与える。証し：神が出会わせられた大人の人々から受けた愛や忠告の影響。教会から愛を受けた子どもたちは、将来教会を建て上げる大人になる。

2. 「しかし、イエスは言われた。『こどもたちを来させなさい。わたしのところに来るのを邪魔してはいけません。天の御国はこのような者たちのものなのです』：14。「邪魔をしてはいけません」の原語には、「妨げていけない、禁じてはいけない、ストップをかけてはいけない」などの意味がある。この時の弟子たちの行動が神の国に水をさすものだったので、イエスはあえて、子どもたちを「わたしのところに来させなさい」と命じられた。

「天の御国はこのような者たちのものなのです」。子どもたちは、他者に依存して生きて行く以外に生きる術を知らない。御国の民（私達クリスチャン）もまた同様に、神に依存していく以外に生きる術を知らない者たちである。神に拠り頼む事は、最高の生き方である。

3. 「そして手を子どもたちの上に置いてから、そこを去って行かれた」：15。主は、こども達を愛して、手を子ども達の上に置き、祝福を祈られた。私達の主の教会も、主の愛を受け、次の世代を担う子どもたち、若者、神が教会に送られた子どもたち、若者を心から愛し、主の御言葉を伝え、育てて行きたい。次の世代が教会を荷う10年、20年後を見据えて！私は天国にいるかも。当教会が主の再臨まで成長し続けますように祈ります。

Ⅲ 日本の教会の現状と希望（次の世代を育て「宣教と成長」が主の再臨まで続く希望）

1. 現状。日本の多くの教会が、高齢化し、若者が減少している。このまま次の世代を育てないなら、ますます教会は減少する。ある教会は30名から現在3名へ。3名も尊い。

2. しかし、希望がある。教会が、今、目を覚まして祈り、信仰継承と若者を育てるビジョンを持つなら、神は答えて下さる。「神は言われる。終わりの日には、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し（神のことばを語り）、青年は幻を見、老人は夢を見る」使徒2：17。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主は、ご自分の収穫のために働き手を送ってくださるように祈りなさい」ルカ9：2。私は、この御言葉から、教会が、本気で、新来者や若者や子どもたちの救いと成長を祈り、その方々を受け入れ、導く受け皿を作るなら、神は喜んで、救われ成長する人々を教会に送って下さると心から信じている。100名の教会員を牧会する為には、一人の牧師では限界がある。牧師は、常に教会の為に祈り、①教会の指導と祈りとみことばの奉仕②教会の問題の解決、一致（悪魔は、教会の主にある一致を壊そうとする）の為、コロナ禍の中でどうすべきか常に神に頼り、祈り、全エネルギーを使う。その為に、ゆっくりと次の世代の使命を担う子どもたちや若者に寄り添い育てるのには限界がある。そこで、希望の光が見えるのは、「働き手を送って下さるように祈りなさい」という御言葉である。教会全体を見守る牧師夫婦がいて、子どもたちや若い方々に寄り添い育てる伝道師夫婦が与えられたら幸いである。もちろん、伝道師夫婦が、すべてできるわけではない。クリスチャンの親の方々や、子どもステップのスタッフと教会員との協力はかせない。完璧な牧師夫婦、伝道師夫婦は、どこにもいない。皆、弱さがある。悪魔の攻撃もある。教会員の祈りと協力がなければ、教会は前進しない。祈り支えていただきたい。祈り支えておられる事を感謝！

Ⅳ 神が伝道師候補の平吹神学生を招く導きの証し。「雀の一羽でさえ、あなたがたの父の許しなしには地に落ちることはありません」マタイ10：29。

1. HBIの時に父さんとの出会い。
2. 後にお父さんは牧師になられ、親しく交わる時が与えられる。日ハムのヒルマン監督（敬虔なクリスチャン）を招いての伝道集会を共に。福音バプテスト宣教団での修養会での奉仕。
3. 娘の大学で、平吹兄は、KGK仲間で、その仲間を我が家に招き交わる。
4. その後、タイの教会のお手伝いの働きを終え、彼は、私の所に交わりに来られた。
5. その後、HBIに入学。
6. 祈りつつ牧師であるお父さんに、「息子さんをHBI卒業後に、当教会の伝道師に招いて良いですか」と尋ねる。お父さんは「よろしくお願ひします」と言われる。
7. 平吹夫妻の願ひ（牧師のもとで訓練を受けたい、若者への重荷）と人柄。誠実、愛、謙遜、御言葉を伝える賜物。
8. 「神は…ご自分の豊かさにしたがって、あなたがたの必要をすべて満たしてください」ピリピ4：19。神の満たしの励まし→「コロナでビジョンをあきらめないで」。「すべての営みに時がある」伝道者の書3：1